

1 はじめに

宇部市石炭記念館は、山口炭田(宇部炭田・大嶺炭田)の石炭産業の歩みを永く後世に伝えるために誕生した施設です。以来、炭鉱によって生まれた文化や技術の伝承の拠点として、また、宇部市民のアイデンティティーを醸成する場所として、半世紀以上にわたり市民に愛されてきました。石炭記念館そのものが宇部市の歴史のシンボルであると言っても過言ではないと考えます。

こうしたことを踏まえて、今後の石炭記念館のあり方を検討していくためには、石炭産業を単に過去のものと捉えるのではなく、今でも私たちの生活基盤に欠かせない技術があることや、そこから新しい技術が生まれているといった未来の私たちにもつながるものと再認識する必要があります。そのためには、市民一人ひとりに自分事として考えていただき、石炭記念館の未来像を市民と共に作り上げ、共に協働していくことが大切です。その意味で、基本構想、基本計画と進めていく初期の段階から、市民とともに協力、連携できる体制をつくる必要があると考えています。

築後50年以上が経過した石炭記念館の老朽化は待ったなしの状態にあり、これ以上、結論を先延ばしすることなく検討を進めなければなりません。そのためには、市民やさまざまな分野の有識者と協働し、今後のあり方を早急に検討することが重要です。